

千葉大学医学部附属病院で千葉県がん・生殖医療相談支援センターに相談された18歳未満の患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年10月25日

小児科/千葉県がん・生殖医療相談支援センター

小児科では、「小児がん患者における妊孕温存療法の実践と課題：後方視的観察研究」に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2022年3月3日～2025年9月1日の間にがん生殖センターで相談を受けた18歳未満の患者を対象に当院で妊孕温存療法について千葉県がん生殖センターに相談・検討された18歳未満の患者の方

1. 研究課題名

小児がん患者における妊孕温存療法の実践と課題：後方視的観察研究

2. 研究期間

2025年承認日～2027年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

研究の目的

小児がんの治療は長期的に命を守れるようになってきましたが、その一方で治療の影響により将来子どもをもつ力（妊^{にん}よう性^{せい}）が弱くなることがあります。最近では治療前に精子や卵子、卵巣の一部を保存する方法（妊^{にん}ようおんぞんりようほう^{ほう}）が行われていますが、小児の患者さんでは年齢や発達の段階により取り組みが難しいことも多いです。

本研究は、当院で妊孕温存について相談した18歳未満の患者さんについて、どのような方法が行われたか、行えなかった理由には何があったかを振り返り、今後の医療体制づくりに役立てることを目的としています。

研究の方法

2022年3月3日～2025年9月1日までに、当院の千葉県がん・生殖医療相談支援センター^{にんようおんぞん}で妊孕温存の相談を受けた18歳未満の患者さんを対象に、診療記録を調べてまとめます。調べる内容は、年齢・病気の種類・受けた治療、妊孕温存を行ったかどうか、その方法やできなかった理由、合併症（治療による副作用）、費用や制度の問題などです。新しく検査や治療を行うことはなく、通常診療の記録だけを使います。個人を識別できないよう加工、千葉大病院で解析をお行いその結果を学会や論文で報告します。

4. 研究に用いる情報の種類

この研究では、新しい検査や治療を行うのではなく、すでに診療の中で記録されている情報を使います。具体的には以下の内容です。

- 年齢、性別
- 病気の種類と診断内容
- 治療の内容（例：抗がん剤、放射線治療、骨髄移植など）
- 妊よう性温存に関する相談の有無と時期
- 妊よう性温存を行ったかどうか、その方法（精子や卵子の保存など）
- 妊よう性温存ができなかった場合の理由
- 副作用や合併症の有無（例：卵巣刺激後の体調不良など）
- 治療にかかった費用や制度利用の有無

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：小児科 診療講師 日野もえ子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないよう加工して、千葉大学医学部附属病院小児科および各研究機関にお

いて厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

小児科 診療講師 日野もえ子

043（222）7171 内線 5364